



城下町で宿場町。

高低差が生み出す風景を楽しむ

亀山市

亀山駅前界限

亀山市の中心部は、昔は亀山城を囲む城下町であり、旧東海道に沿って町屋が軒を連ねた宿場町でもありました。今も、あちらこちらに江戸時代の情緒が残り、歴史の深さを忍ばせます。また、このまちは、中央を急斜面が走り、大きな高低差がまちを南北に分ける複雑な地形。坂や石段が思いがけない風景を見せてくれます。



今回は、JR亀山駅を出発し、城跡の近くを巡って城下町の名残を味わい、東海道に入って宿場町の面影をたどります。ご案内いただいたのは、「亀山宿語り部の会」会長の豊田 幸孝さん。生まれ育った郷土への愛と誇りに満ちた語り部さんです。

取材・文：堀口 裕世

駅前のヤマトタケル像



駅前の「愛うるはし」像



亀山市立図書館



石井兄弟敵討の碑



多門櫓を見上げる

JR「亀山駅」前に立つ美しい銅像は日本神話のヒーロー・日本武尊とその妻の弟橘媛。『愛うるはし』というタイトルで、令和5年に立てられました。亀山市には日本武尊の陵墓の一つや弟橘媛の生まれた忍山神社もあります。ここからスタートしましょう」とにこやかな豊田 幸孝会長に従って、ゆるやかに城跡の方向に上っていく県道302号(亀山停車場石水溪線)を進みます。亀山市立図書館を過ぎて視界が開けると、山に向かってせりあがっていく町並みと、複

雑に立体交差する道路が織りなす風景に驚かされます。立体交差の上では見下ろしていた家並みが、南崎交差点を越えた辺りから、左側は道より高くなり、右側は道と同じ高さになります。道の左手にある階段の上には「お城見庭園」がありますが、ここは帰り道に寄ることにしてさらに進みます。

武家の町から旧街道へ

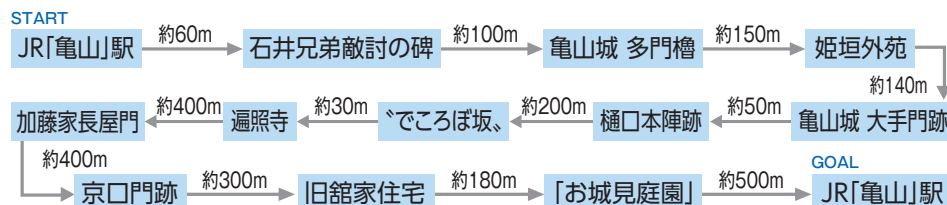
少し行くと右側に大きな池が見えます。「この池は亀山城の堀の名残です。昔、池はもっと大きくて亀山中学校の校庭まで続き、お堀はこの池から西丸町付近

をぐるりと囲んで、城の北側にある菖蒲園や公園池までつながっていました。今立っているところは、昔は城内だったのです」の言葉に、往時の城の規模を感じます。池の端に立つのは石井兄弟敵討の碑。「この仇討は、当時、元禄曾我兄弟」と評判になり、『靈験亀山鉾』という歌舞伎にもなりました。上演される際には今も役者さんがゆかりの寺にお参りに来られます」。

池を越えてはどなく、亀山城多門櫓の下に出ます。「亀山新城は織豊期に築かれ、江戸時代は石川家の居城でした。この櫓は、県の有形文化財に指定されて



■ 行程図 所要時間／約2時間30分 ※所要時間は、おおよその目安です。





白壁が続く加藤家屋敷跡



京口門の案内板



梅厳寺



旧館家住宅



「お城見庭園」で一休み

亀山城下の西端

さらに進むと、亀山宿の西端である

お堀の池のほとりに出ます。県道を渡って白壁の塀が続く道に入ると、宿場の風情から武家のまちの雰囲気に戻ります。「この白壁は加藤家の土塀で、土蔵や長屋門、母屋の一部などが残っています。加藤家は備中松山・現岡山県高梁市から、石川家の殿様の転封に従ってこの地にきた家老の家です」。続いて、家康ゆかりの青木門跡などを見、亀山城西之丸外堀跡へ。この堀が城の西端で、道は旧東海道と重なります。

京口門跡に出ます。「亀山に過ぎたるものの二つあり伊勢屋蘇鉄に京口御門」と歌われるほど立派な門だったそうです。蘇鉄は旅籠の伊勢屋にあったもので、現在は文化会館に移植されています。ここが亀山宿の西の出入り口になるのですが、そのすぐ外側の竜川の風景を見てください。歌川広重の『東海道五拾三次之内 亀山 雪晴』に描かれたのもこの辺りです。今は道から続く平坦な橋を渡ることができですが、橋の上から見下ろす川の両岸は、深いV字を描く急傾斜。「城の守りには良い地形だったのですが、旅人には厳し

い道ですね。この山側にある梅厳寺は、市内に4つある石川家の菩提寺の一つです」。

ここから西之丸外堀跡まで戻り、右折して、先ほどの道より一本駅寄りの道を進みます。呉服屋だった旧館家住宅、西町若林家の間屋場跡など、宿場町らしい風景が残っています。「お城見庭園」には休憩スペースがありますので、ここで一息入れたら階段を下りて、右へ。立体交差の上から、町全体を見渡して名残を惜しみ、駅へと戻りましょう。

問 亀山市市民文化課
TEL 0595-9611218



姫垣外苑通りに立つ石碑



亀山城 大手門跡の案内板



江ヶ室交差点。御馳走場、で大名行列を出迎えた



でころぼ坂、は階段状に整備されている



遍照寺の門から本堂を見下ろす

います」。本丸町、西丸町などの地名やたくさん石碑に武家の町ならではの風情が漂います。

道のカーブに沿って進むと交差点へ。「北からの道が姫垣外苑通りで、ここまでは本丸の中です。この通りに沿って太鼓櫓があり、時を告げる太鼓が置かれていました。道を挟んだ先は東三之丸。高位の武士の屋敷がありました」。さらに進むと江ヶ室交差点に出ます。「ここは城の東端で、亀山城 大手門がありました。東海道は亀山宿の東の入り口・江戸口門を通ってここまで続き、この門の前で南に折れて、城の外側を回って西に

頭で鐘撞く遍照寺

交差点を曲がると、細くなった道の両側に家々が並び、旧街道らしいうねりやクラックが見られます。しばらく進むと、左側の家並みが途切れ、下に続く階段に出ます。「でころぼ坂」といって、昔は下の道に直結する唯一の道でした。でく

(人形)が転ぶなど、名の由来は諸説あります」。200メートルほどの長さで、立体交差の上から見下ろした道の低い場所が続いています。このすぐ隣には遍照寺の山門がそびえ、門の中央から見下ろす位置に、本堂の美しい屋根が見えます。「本堂はお城の二之丸御殿を移築したものです。この境内も急傾斜で、奥に行くほど下がついているのです。この門は鐘楼なのですが、頭で鐘撞く遍照寺」といわれる特殊な景観になっています」。

再び武家屋敷のまちへ

さらに旧東海道を歩いていくと、再び